

# 経済・金融 フラッシュ

## 企業物価指数(2013年8月) ～2ヶ月連続で前年比は2%を超える上昇率に

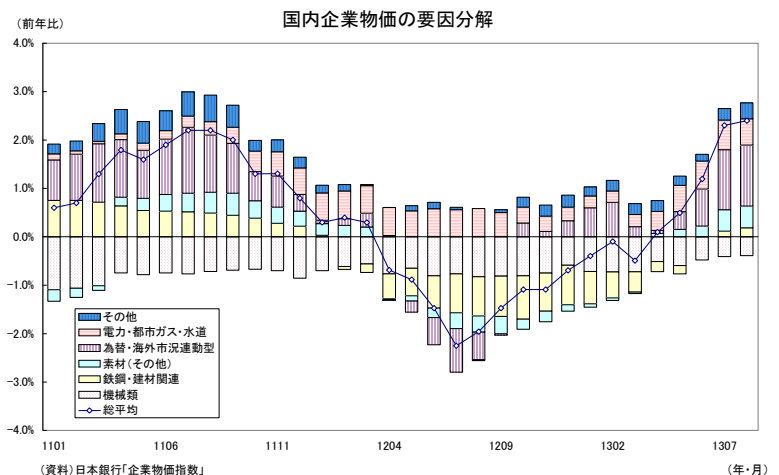
経済研究部 研究員 押久保 直也

TEL:03-3512-1838 E-mail: oshikubo@nli-research.co.jp

### 1. 企業物価指数は前年比で5ヶ月連続の上昇

9月11日に日本銀行から発表された企業物価指数によると、2013年8月の国内企業物価は前年比2.4%と5ヶ月連続で上昇し、7月の同2.3%から上昇幅が小幅拡大した。前年比では、2ヶ月連続で2%を超える高い上昇率となっている。また、対前月比では0.3%と3ヶ月連続で上昇した。

8月の国内企業物価（前年比）を寄与度別に見てみると<sup>1</sup>、機械類が前年比▲0.4%（7月：前年比▲0.4%）、鉄鋼・建材関連が前年比0.2%（7月：前年比0.1%）、素材（その他）が前年比0.4%（7月：前年比0.4%）、為替・海外市況連動型が前年比1.3%（7月：前年比1.2%）、電力・都市ガス・水道が前年比0.5%（7月：前年比0.6%）、その他が前年比0.3%（7月：前年比0.2%）となっている。



国内企業物価（前年比）が高止まりしている要因としては、機械類の下落幅が縮小しつつある上、為替・海外市況連動型、素材（その他）、鉄鋼・建材関連の上昇幅が数ヶ月前よりも拡大したことがある。円安基調が続く中、昨年8月は78～79円台で推移するなど歴史的な円高水準だったこともあり、為替・海外市況連動型が前年比での上昇に最も寄与した。

今後は①海外経済回復に伴う国際商品市況の上昇、②国内景気回復持続に伴う需給バランスの改善、③貿易赤字の恒常化、米国のQE3縮小に伴う日米金利差の拡大を主因とした円安基調、④北海道・東北・四国の3電力会社による9月からの企業向け電力料金の値上げ実施、から国内企業物価（前年比）は更に上昇幅を拡大していくことだろう。

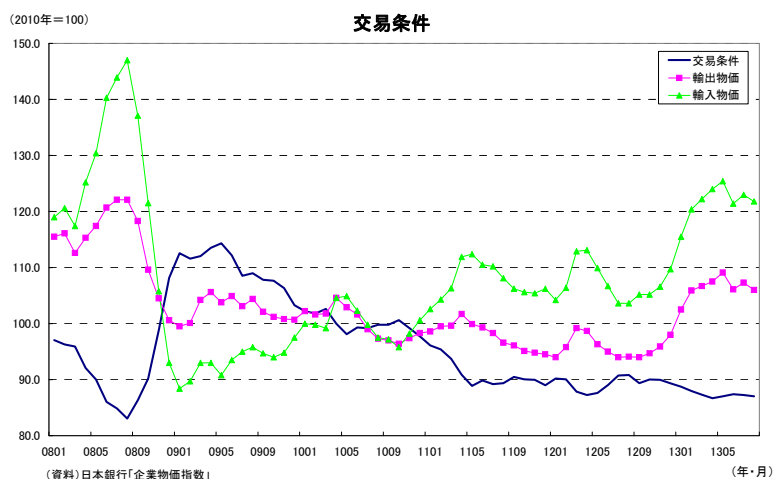
<sup>1</sup> 機械類：はん用機器、生産用機器、業務用機器、電子部品・デバイス、電気機器、情報通信機器、輸送用機器  
鉄鋼・建材関連：鉄鋼、金属製品、窯業・土石製品、製材・木製品、スクラップ類  
素材（その他）：化学製品、プラスチック製品、繊維製品、パルプ・紙・同製品  
為替・海外市況連動型：石油・石炭製品、非鉄金属  
その他：食料品・飲料・たばこ・飼料、その他工業製品、農林水産物、鉱産物

## 2. 交易条件は2ヶ月連続で悪化

8月の輸出物価は前年比12.6%、前月比▲1.2%となり、輸入物価は前年比17.6%、前月比▲1.0%となった。一方、契約通貨ベースでは、輸出物価は前年比▲1.9%、前月比▲0.1%となり、輸入物価は前年比▲0.2%、前月比0.4%となった。輸出物価、輸入物価ともに契約通貨ベースでは前年比で下落しているものの、円安基調が続いているため、円ベースでは前年比で大幅な上昇となっている。

8月の交易条件（輸出物価／輸入物価×100）は87.0（7月：87.2）となり、小幅ながらも2ヶ月連続で悪化した。

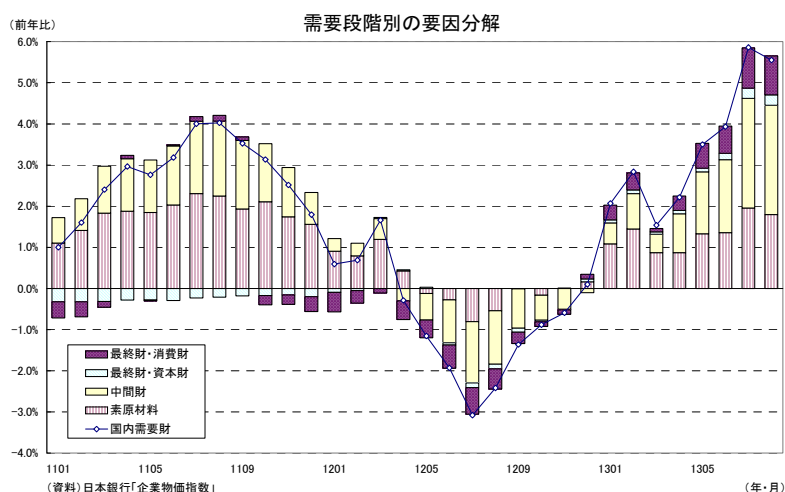
8月は一時的に円高（99円台→97円台）に振れたため、輸入物価は2ヶ月ぶりに前月比で下落したものの、9月に入ってからは再び100円台まで円安が進んでおり、輸入物価が上昇することで、交易条件は更に悪化する可能性が高い。



## 3. 消費財は前年比で9ヶ月連続の上昇

2013年8月の国内需要財の物価は前年比5.6%（7月：前年比5.9%）となった。その内訳を需要段階別・用途別にみると、素原材料が前年比15.9%（7月：前年比17.4%）、中間財が前年比5.2%（7月：前年比5.2%）、最終財・資本財が前年比2.5%（7月：前年比2.5%）、最終財・消費財が前年比3.5%（7月：前年比3.6%）となった。いずれの財についても、前月より上昇幅の拡大基調が一服したものの、企業間の取引では、円安基調が続くに伴い、素原材料、中間財のみならず最終財にまで物価上昇が徐々に波及する流れは続いている。

2013年7月の消費者物価（全国、生鮮食品を除く総合、以下コアCPI）は前年比0.7%まで上昇しているが、川上から川下への価格転嫁が徐々に進むことで、コアCPIは年末にかけて1%程度まで上昇することが予想される。



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。